

4 単元の計画(全34時間)

次	時	学習活動	資質・能力育成のための支援 課 課題解決力 見見通し 共 共感性	評価規準
一	1	かけ算の用いられる場面といくつかの考え方を理解する。	見 同じ数ずつでないものとの比較を通して、基準量の存在をはっきり感じさせる。	【関】基準量が違う図と同じものを比べてかけ算の用いられる場面を探そうとする。
	2	かけ算の意味と式について理解する。	課 半具体物の操作を通して、「何のいくつ分」を意識して式とつなぐようにする。	【知】基準量のいくつ分で式で表せることやかけ算の答えは基準量の何倍で求められることを理解する。
	3 4	かけ算の用いられる場面を式に書き、答えを出す。	見 いろいろな場面の問題を解くことにより、「なんばい」や「いくつ分」というイメージをもたせる。	【表】いろいろな場面をかけ算の式に表し、累加で答えをたすことができる。
	5 13	5,2,3,4の段の九九を構成し、九九の唱え方を知り、九九を使って文章題を解く。	課 身の回りの乗法の場面の絵から乗法の意味理解ができるように具体物や半具体物を準備しておく。 見 既習の段の答えの求め方を振り返ることを通して2,3,4の段の答えの出し方が予想できるようにする。	【関】絵や図や半具体物に表し、操作しながら乗法で表そうとする。 【考】基準量をもとに1倍から9倍までの答えを累加法で求めることが理解できる。 【表】5,2,3,4の段の九九を確実に唱えることができる。
	14 19	5,2,3,4の段を使って課題に取り組み、理解を確かにしたたり、深めたりする。 (本時)	課 身の回りから、かけ算の問題を作る活動を通し、実生活の問題に進んでかけ算を取り入れられるようにする。 共 友達とかけ算の問題を解き合うことで、かけ算についての理解を深めさせる。	【関】問題の場面を見て、進んで式化したり、問題文を作ったりしようとする。 【考】生活場面の絵を見て演算を決定し、作問することができる。
二	20	アレイ図を使ってかけ算を構成する。	見 アレイ図の使い方を知らせ、同じ色の縦の列が基準量を表し、かけ算の答えが出しやすくと見通しをもたせる。	【関】アレイ図の便利さが分かり、かけ算の構成を積極的にしようとする。
	21 29	6,7,8,9,1の段の九九を構成し、九九の唱え方を知る。 6,7,8,9,1の段の九九を使って文章題を解くことができる。 (本時)	共 6,7,8,9,1の段のかけ算をアレイ図を使って累加の方法で構成しても、違った方法で工夫して構成しても答えが出せることの話合いをさせる。 課 身の回りの6,7,8,9,1の乗法の場面の絵から乗法の意味理解ができるように具体物や半具体物を準備しておく。	【関】アレイ図を使って、6～9の段を構成しようとする。 【考】アレイ図を使って、6～9の段の構成を考えることができる。 【関】問題の場面を見て、進んで式化したり、問題文を作ったりしようとする。 【表】6,7,8,9,1の段の九九を確実に唱えることができる。
	30 34	6,7,8,9,1の段を使って課題に取り組んだり、作問したりして理解を確かにしたたり、深めたりする。	見 身の回りの6,7,8,9,1の段の乗法の場面の絵から6,7,8,9,1の段の九九が使えることを予想し、答えを見当づけるようにする。	【関】問題の場面を見て、進んで式化したり、問題文を作ったりしようとする。 【考】生活場面の絵を見て演算を決定し、作問することができる。